

『は〜い！農業委員会です』

〜四代目へ続く、花と想いのバトン〜

vol.8

問 農業委員会事務局
☎0823-43-1645

市農業委員会は農業委員9名・農地利用最適化推進委員15名で構成され、農業振興のため、農地利用の最適化活動を行っています。農業委員の活動を広く知っていただくために、インタビュー形式で掲載します。第8回目は、**田中正彦委員（61歳）**です。

能美町で三代続く花農家、田中農園。その中心にいるのが、三代目の田中正彦委員です。平成13年に農業委員に就任して以来現在まで、農地の保全やマッチングにご尽力されています。

人生の節目を彩る花と、食卓に並ぶ新鮮な野菜を育て、卒業式や入学式、結婚式、成人式など地域の「おめでとー」のそばには、いつも田中農園の花があります。

小さいころから当たり前のように家業を手伝い、広島農業短期大学を卒業後、そのまま農業の道へ。決して楽な道ではありませんでした。天候に左右され、価格が変動するなど努力が結果につながるには限らない世界です。それでも「自分の責任で経営できるのが農業の面白さ」と語ります。うまくいっても、いかなくても自分次第。その覚悟が、三代目として農園を守り続けてきた原動力です。

2月の取材時には、ちょうどランタンキュラスとテマリソウの出荷作業が最

盛期で、ハウスいっぱいには花が咲き、家族や従業員総出でてきぼきと作業をされていました。その様子からは、あたたかい家族の絆とチームワークが伝わってきました。

長年の努力が実を結び、平成28年にオバマ大統領が広島市を訪問された際、献花の花輪に田中農園の花が使われるという名誉ある出来事もありました。

そして今、息子の智さんが四代目として家業を継がれました。「継げとは言わなかった」と穏やかに笑う正彦さん。その背中を見て育った智さんが、自らの意思で農業を選びました。昨年11月には、かわいいお孫さんも生まれ農園は益々活気にあふれています。

親から子へ、そして孫へ。花とともに受け継がれていく想いと技術。能美町で、今日も変わらず、誰かの特別な日を支える花を育てています。



▲左から、田中智さん、従業員3名、田中正彦さん